

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」宇都宮校			
○保護者評価実施期間	2025年 11月 1日 ~ 2025年 12月 20日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26	(回答者数)	24
○従業者評価実施期間	2025年 12月 1日 ~ 2025年 12月 29日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 10日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用者に応じた支援プログラムを立案し療育を行っており、保護者にモニタリングもしていただいているため、保護者の最新のニーズを汲み取ることができる。	支援時間45分とフィードバックの時間15分を分けていること。	フィードバックで得た情報を職員間で共有し、常に最新の支援プログラムにしていく。
2	フィードバックで、しっかり振り返りが出来ることで、支援する側も最新の情報共有が出来ること。	混雑している時間帯でない限り、15分かけてゆっくりフィードバックを行う。 管理者だけでなく、指導員全員が保護者と深く話ができるようにしている。	家族支援という形でなくても、工夫点のおかげで、どの指導員でも保護者から話を伺って、相談を受けることができる。その結果、関係機関連携へと進んだり、週コマ数の増加などに繋がっている。
3	教室がオープンスペースになっているので目が届きやすいので管理者、指導員が支援状況を把握できる。	パーテーションを活用しながら他児との距離を保っている。	利用者が安心して利用できる環境整備を心掛け、支援スペースに入った際には気が散らないよう支援内容も工夫していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	教室の立地上飛び出しの危険性がある。	混雑が予想される時間帯の出入りが多く、駐車場が混み合ってしまう。また、教室前の道路の車の往来が多い。 お迎えの時間をお伝えしたり、場合によってはフィードバックをLINEでお伝えしている。	予定を組む段階で、利用時間帯の分散が必要。 またフィードバックでお伝えしきれなかった部分はLINEでお伝えしていく。退室する際は保護者と手をつないでもらう。
2	クールダウン用の部屋がない。	室内面積と療育部屋、職員室でこれ以上部屋を作ることが難しい。	毛布にくるまる、大きい段ボール箱の中に入るなど、ご利用者様が落ち着ける道具を活用する。
3	教室の構造上、感染症発生時流行しやすい。	毎日の清掃、消毒、適宜換気を行っている。また、指導員の体温管理に気を配っているが、構造上の問題でワンフロアの為、換気がしにくい。	毎日の清掃、換気、消毒を継続。 利用者の健康状態を観察、把握していく。 温度・湿度計で現在の教室の状態を把握し、空気清浄機の水交換をこまめに行う。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	こどもサポート教室「きらり」宇都宮校	公表日	2026年2月14日				
		利用児童数	26回収数24				
	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	14	10			通常の個別支援では区切られているので問題ないと思う 建物の構造上仕方ないと思うがスペースが狭い感じがします	限られた空間の中でも、お子さま一人ひとりが落ち着いて活動できるよう、利用時間や組み合わせを調整し、パーテーション等を活用しながら安心できる環境づくりに努めています。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	22	2			必要な場面で職員の方が関わってくれています 配慮が適切になされています	お子さまが不安にならないよう、支援中やフィードバック時にも一人にならない体制を大切にし、引き続き見守りを行っていきます。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	20	4			心地よい環境と感じます 児発放ディの空間は別になっていると思いますが分かりやすいかは感じなかったです	ご利用人数やお子さまの特性に応じ、より分かりやすく安心できる環境となるよう、運営方法や空間の使い方を工夫してまいります。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	22	2			心地よい環境と感じます	集中が途切れやすいお子さまには、時間調整や活動内容の工夫を行い、無理なく過ごせる環境づくりを継続していきます。
適切な支援の提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援を受けられていると思いますか。	24				個別支援で色々な先生から見たこどもの状態で療育が受けられているのがとても良い経験豊富な先生から今まで実例なども聞けるのでありがたい	今後も職員それぞれの専門性を活かしながら、お子さまの姿を多角的に捉え、保護者の方と共有しながら支援を行っていきます。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	24				保護者の気持ちに寄り添って助言してもらえるので気持ちに助けられています	お子さまだけでなく、保護者の思いにも寄り添いながら、その時々の状況に応じてプログラム内容を検討していきます。
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	23			1	保護者の気持ちを聞いたうえで個別支援計画が作成されていると思います	お子さまの成長やご家庭での様子を踏まえ、定期的な見直しを行いながら、より納得感のある計画作成を継続します。
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	22			2	子どもに合わせ、具体的な支援が設定されていると思う	フィードバック時に現在の困りごとや不安を伺い、必要に応じて支援計画の内容を調整していきます。
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	22	1		1	常に、成長に合わせ適した支援がなされていると思います	今後も成長の変化を大切に捉え、支援計画と実際の支援が一致するよう丁寧に取り組みます。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	20	2		2	子どもの様子に合わせて、活動の内容が工夫されていると感じます	継続支援が必要な場合を除き、お子さまの興味や状態に合わせて内容が偏らないよう工夫を続けていきます。
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	11	1	4	8	皆さん、園などに並行通園されていると思うので必要性はあります	現在の通所状況やご家庭の考え方を尊重し、無理に交流を設けることはせず、必要に応じてご相談させていただきます。
保護者への説明等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	23			1	必要な説明があり、特に不安を感じたことはありません	今後も分かりやすく丁寧な説明を心がけ、疑問や不安があればいつでも確認できる体制を整えていきます。
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	24				必要に応じて支援内容について説明をしています	引き続き、支援内容について分かりやすくお伝えし、ご理解・ご納得いただけるよう努めます。
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	19	2	1	2	参加していないのでわかりません	今後、保護者のニーズを確認しながら、家族支援の形について検討していきます。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	23			1	毎回送り迎えの際に、必ず話ができるて気軽に相談しやすい雰囲気を作ってくれたり安心しています	この関係性を大切にし、日々の小さな変化も共有しながら安心して通っていただけるよう努めます。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	21	1	1	1	フィードバック時に教えてくださっています	毎月、個別相談の希望を伺い、ご希望に応じて日程調整を行い実施しています。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	24				毎回、支援終わりにフィードバックがありその日の様子はもちろん、最近の困りごとなども相談させていただけて大変ありがとうございます	保護者の思いに寄り添いながら、安心して相談できる関係づくりを今後も大切にしていきます。
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	9	5	2	8	きょうだい同士の交流は必要ないと思う事業所はどちらしか利用していないので保護者同士の交流があつたら参加してみたいです	ご希望があった場合には、保護者同士が交流できる場の開催を検討していきます。
	19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	23			1	家族支援が月に1回だけでなく必要な時にお願いしやすいので有難いです	必要に応じて随時対応し、関係機関とも連携しながら課題解決につなげていきます。

	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	23			1	子どもの様子や情報は共有されていると思います	保護者の声を大切にしながら、引き続き丁寧な情報共有を行っていきます。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	17	2	1	4	必要な情報は伝えられていると思います LINEで連絡はとれていますがホームページなどがあるのは知らないです	SNSやお知らせを活用し、必要な情報が伝わるよう周知方法を工夫していきます。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	24				十分留意されていると思います	契約時の説明に加え、鍵付きロッカーでの保管を徹底し、今後も適切な管理を行います。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	19	2		3	安全の確保はとれていると思う	各種マニュアルを整備し、いつでも確認できる体制を整えています。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	19	1		4	定期的に実施されていると思う	月1回の避難訓練を実施し、お子さまにも無理のない形で参加してもらっています。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	23			1	安全の確保はとれていると思う	保護者の意見も取り入れながら、教室環境の改善と安全確保に努めています。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	22	1		1	発生したことはないが速やかに連絡説明がされると思う	日頃から安全確認を行い、万一の際は速やかに連絡・説明を行います。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	24				落ち着いて通所てきており安心して通所できています	お子さまが安心して過ごせることを職員共通の認識として支援を行います。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	23	1			こどちにとっては、療育というより遊び感覚で来ていると思っていて通所を楽しみにしている 教室に入ることを嫌がることもなく楽しく通っている	「楽しい」「安心できる」気持ちを大切にしながら支援を継続していきます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	23	1			毎回来るのを楽しみにしています	職員の専門性を活かしながら、より満足いただける支援を目指すとともに、利用時間帯の調整等も検討していきます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		こどもサポート教室「きらり」宇都宮校					公表日	2026年 2月 14日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。		○	パーテーションで区切って他の教具等に目が行かないよう気を配り行っている	建物構造上、十分な広さを常時確保することが難しい状況があるため、活動内容や利用人数を丁寧に調整しながら、安全面に最大限配慮した運営を行っていく。保護者にも状況を共有し、ご理解を得ながら改善を重ねていく必要がある。		
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		利用時間が重なる場合には小集団などの支援を行っている	基本的な配置は確保しているが、利用時間の重なりやお子さまの状態によっては十分でないと感じる場面がある。お子さま一人ひとりに安心して過ごしていただけるよう、職員配置や支援方法の工夫について継続的に検討していく。		
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○	お子さんにも分るよう危ないところは掲示しておくなど、環境整備はできているが、車椅子が必要なお子さんのための、バリアフリーなどは難しいため、教室入口の高さを調節し机を用意するなどの工夫を行っている。	ワンルーム構造のため、十分な構造化や情報提示に限界がある。今後も掲示物の配置や伝え方を工夫し、分かりやすさを高めるとともに、身体的配慮が必要なお子さまについては、保護者と相談しながら可能な範囲で対応を検し続けていく。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		お子さんが心地よく過ごせるように、毎日当番制で清掃を行ったり、出入口に季節の飾りをして視覚的に楽しめるようにしたりするなどの工夫を行っている。	利用人数によっては窮屈に感じさせてしまう可能性があるため、教具や備品の整理整頓を徹底し、少しでも落ち着いて過ごせる環境づくりに引き続き取り組んでいく。		
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		ジョイントマットを敷いたり、パーテーションで仕切りを作っている。	個別療育において、より集中しやすい環境を安定して確保できるよう、基本となるブース環境を整え、お子さまの状態に応じて柔軟に調整していく必要がある。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		情報共有を徹底している。記録を書く際に過程や結果などの振り返りを毎回行えている。	振り返りは行っているものの、全職員が同じ目標意識を持って参画できるよう、共有方法や振り返りの機会の持ち方について、さらに工夫していく必要がある。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		気になったことがあった際に相談できる環境、にあり参画出来ている毎年保護者向けに評価表をお渡しし、その中で改善して欲しいといった意見がある場合は対策を検討している。	今後は改善内容や対応経過をより分かりやすく保護者に伝え、安心感につなげていく。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		職員の中でも意見交換が気軽にできる時間があるため、意見を受け止め、現状で改善できそうなどろは改善を行っている。	すぐに改善が難しい課題についても、代替案の検討や途中経過の共有を行い、職員間の理解を深めながら、段階的な改善につなげていく必要がある。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	評価表の作成は行っているが、第三者評価は行なっていない。内部監査や実地指導等実施済み。	現在は第三者評価を実施していないため、今後は外部の視点を取り入れることも検討し、より客観的な質の向上につなげていく。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		毎月研修があり、質の向上に繋いでいる。また、必要に応じて外部研修に参加している。	内部研修に加え、外部研修や他事業所との情報共有の機会を増やし、支援の幅を広げることで、より安心感のある支援につなげていく。		
適切な支援へ	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		職員一人一人が、その子に合ったプログラムを作成し、保護者に好評している。また、活動後にプログラム内容について公表している。	現在の取り組みを継続しつづけ、保護者がより理解しやすい形で支援内容を伝えられるよう、説明方法や共有の仕方をさらに工夫していく。		
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		既定のアセスメントシートを用いてアセスメントを行っている。お子様の成長や発達段階、ニーズに合わせて個別支援計画の作成をおこなってる。	今後も保護者の思いや困りごとを丁寧に汲み取り、より納得感のある支援計画につなげていく。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		児発管から相談があった場合は、保護者とのモニタリングをして支援内容の検討会を開き作成している。	制度上の制約はあるが、今後も職員間および保護者との対話を重ね、より多角的な視点で支援内容を検討していく必要がある。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		児発管が作成した支援計画に目を通し、情報共有し、計画に沿った支援を実行している	支援の質をより均一に保つため、確認の機会や情報整理の方法について引き続き工夫していく。		
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		標準化されたツールを用いながら、継続的な支援を行っていくようにしているが、お子さんにあって毎回違うものが良い方もいるため、その都度工夫している。	個々のお子さまに合った方法を選択しているが、評価の一貫性と分かりやすさを高めるため、記録や共有方法について今後も検討していく。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		地域支援、地域連携のねらいに関しては、望まれていない保護者の方が多いが満遍なく支援の中に取り入れられるようにプログラムを立てている。	保護者の意向を尊重しつづけ、必要に応じて地域支援や連携の視点も丁寧に説明し、理解を得ながら支援内容を検討していく。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		基本的には、個人で計画を立てているが、就学プログラムを行う際は集団活動のため職員同士で、共有しながら、プログラムの立案をおこなっている。	個別立案が中心となっているため、チームとしての視点を支援に反映できるよう工夫していく。		

の 提 供	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		プログラムが固定化されていることに安心を覚える方以外は、指導員がローテーションをされるため、基本的には固定化されないようになっている。	安心感を大切にしつつも、お子さまの成長や変化に応じた柔軟なプログラム展開ができるよう、引き続き検討していく。
	19 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		年長向けに就学プログラムを行ったり、年少と年中に向けての小集団活動を取り入れたりしている。	現在の取り組みに加え、無理のない範囲で集団活動を充実させ、小集団から段階的に経験を広げられるよう検討していく。
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		スプレッドシートで予定確認を行い1日の流れを組んでいる。	職員数に限りがあるため、同時間帯の受け入れに制限が生じている。保護者の利用希望に配慮しつつ、無理のない体制づくりを検討していく。
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		毎回振り返りを行えているわけではないが、記録を見て、他の指導員と話し合うなどをして共有を行っている。	毎回十分な振り返りが行えない場合もあるため、記録を活用しながら情報共有の質を高め、支援の改善につなげていく。
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		記録が溜まってしまわないよう意識している。記録を書く中で、改善点を考えたり、反省をしたりして次回の支援に活かしている。	記録の質や活用方法について引き続き見直しを行い、より分かりやすく次の支援に活かせる形を目指していく。
	23 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		決まった期間内にモニタリングを実施している。	モニタリングは実施しているが、保護者への説明や共有をより丁寧に行い、安心して支援を継続していただけるよう工夫していく。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	24 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		保護者の方から、希望があれば、他事業所との担当者会議や、関係機関連携を行っている。それぞれのお子さんによって適した者が参加している。	保護者の意向を尊重しながら、必要に応じて関係機関との連携機会を増やし、より一貫した支援につなげていく。
	25 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		連携医療機関を設置し、緊急時に応を要請できる環境を整えている。	連携体制は整えているが、今後は保護者にも分かりやすく連携内容を共有し、安心感につながるよう工夫していく。
	26 併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		保護者を通じて情報交換を密にしている。また、園や学校とも関係機関連携を通して、情報共有や目標のすり合わせをおこなっている。	現在の連携を継続しつつ、保護者の負担にならない形で情報共有を行い、移行期の不安軽減につなげていく。
	27 就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		就学時の連絡は行っていない。 保護者からの要望もない。	現在は積極的な連携が行えていないため、今後は保護者の意向を丁寧に確認しながら、必要に応じて学校との情報共有や相談の場を設けていく。
	(28~30は、センターのみ回答)				
	28 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
の 連 携	29 質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30 (自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	(31は、事業所のみ回答)				
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○		児童発達支援センターの研修に積極的に参加し助言を頂き教室全体で情報共有を行っている。	現状は研修や助言を受ける機会は確保されているが、より定期的かつ計画的にスーパーバイズの機会を設け、具体的な課題や支援方法を職員全員で共有することで、教室内の支援の質をさらに向上させる。
	32 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○		現状は関係機関連携のみで、交流の機会が限られている。今後、希望するお子さまや保護者に合わせて、安全に参加できる交流機会を検討していく。
	33 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		毎回の支援後のフィードバックや家族支援内で活動の様子や、ご家庭・園での様子をお伺いし職員と共に理解を図っている。	現在のフィードバックや家族支援の仕組みをさらに充実させ、保護者との共通理解がより深まるよう、記録や報告方法を工夫していく。
	34 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○		現在はプログラムとしての提供は行っていないため、今後希望者に向けて家族支援プログラムや研修の案内を積極的に周知し、参加しやすい環境づくりを進める。
	35 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に丁寧にお伝えし、疑問があれば質問にお答えしている。	現状通り契約時に丁寧に説明しているが、定期的に保護者へ再確認や質疑応答の場を設け、安心して利用できる体制を維持していく。
	36 児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		保護者のご要望を伺い、お子さまにとって最善の策を見つけ支援計画に取り入れてる。	保護者の意向を反映できるよう、面談や相談の機会を定期的に設け、安心して意見を伝えられる体制を継続して整える。

保護者への説明等	37 「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		個別支援計画更新時に支援内容と支援目標の説明をし同意を得ている。	現状通り説明・同意は行っているが、保護者が理解しやすい資料や説明方法の工夫をさらに進め、納得感を高めていく。
	38 定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		家族支援面談や支援後のフィードバック時に相談を受け、傾聴・助言を行っている。	現状の面談・助言の取り組みを継続し、より幅広い悩みや不安に対応できるよう、相談の受けやすい体制や時間の確保を工夫する。
	39 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○	○		現在は実施できていないため、安全面に配慮しつつ、保護者同士・きょうだい同士の交流機会を段階的に設けていくことが課題である。
	40 こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		家族支援を実施し、必要に応じて関係機関連携を行っている。	現状の家族支援や関係機関連携を継続し、相談・申入れがあった際により迅速かつ丁寧に対応できる体制の強化が課題である。
	41 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		ブログやInstagram等のSNSにて開催したイベント等の発信を行っている。	SNS等での発信を継続しつつ、情報が届きにくい保護者にも確実に共有できる方法（紙媒体や個別連絡等）の工夫を進める。
	42 個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		鍵付きの書庫でPC、個人情報を保管。	現状の保管体制を継続し、定期的な確認・点検を行い、安全性を保つ取り組みを強化していく。
	43 障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		言葉でのコミュニケーションが難しいお子さんについては、タブレットの絵カードなどを使用して、情報伝達が行えるようにしている。	言葉でのコミュニケーションが難しいお子さまに對しても、適切な補助ツールを活用し、意思疎通が確実に行えるよう引き続き工夫する。
	44 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○	○	ご利用者様以外に向けて、無料の体験ブログラムの周知をしている	地域住民への直接的な招待は行えていないため、安全に配慮した形で、見学や交流の機会を少しずつ増やしていくことが課題である。
非常時等の対応	45 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		月に一回避難訓練を行いテーマ別に実施している各マニュアルは見やすくファイリングしている	現状の取り組みを継続し、マニュアルの理解度や訓練内容を定期的に振り返ることで、より実践的な対応力を高めていく。
	46 業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		BCP委員会や研修の機会を設け非常災害の発生に備えている。	BCP策定・訓練を継続し、職員間での理解をさらに深め、災害時も安全かつ迅速に対応できる体制を維持する。
	47 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		フェイスシートに予め情報を記載していただいている	現状のフェイスシートによる事前確認を維持し、変更や更新があった場合に速やかに共有できる仕組みを強化する。
	48 食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。				現在対象者がいないため対応は行ってないが、今後必要となった場合に即時対応できる体制を事前に確認・整備しておく。
	49 安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画を作成し、職員全体で確認も行えている。避難訓練も適宜行っている。	現状の安全計画・訓練を継続し、保護者にも内容を分かりやすく周知することで、さらに安心感を高める。
	50 こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		契約、避難訓練の際に避難場所の提示を行っている	現状は契約時・避難訓練時に周知しているが、定期的に確認や情報更新を行い、家族の理解と協力を確実にする。
	51 ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットが起った際はすぐに上長に報告し再発防止のための会議をおこなっている	発生時の報告・検討体制は整っているが、事例を職員全体で共有し、未然防止の工夫をさらに定着させることが課題である。
	52 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止・権利擁護委員会を設置し、研修等を実施している。	研修を継続し、職員の理解を定期的に確認することで、児童の権利擁護と安全確保をより確実にする。
	53 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		契約書、重要事項説明書、また個別支援計画に身体拘束に関する記載をし周知を行っている。	現状通り契約書・個別支援計画に周知しているが、必要な場合に保護者が安心できる説明や確認手順を継続的に整備していく。